

Challenge Road

SINCE 1961

学校法人 トヨタ名古屋整備学園
トヨタ名古屋整備専門学校

〒452-8567 愛知県西春日井郡春日町落合一番割1
TEL:052-400-3611 FAX:052-400-3615
発行責任者 藤田 紀一郎

ホームページ <http://www.toyota-tcn.ac.jp>
E-mail gakuseibu@toyota-tcn.ac.jp

Vol.1

TOYOTA Technical College Nagoya News



「Challenge Road」創刊によせて

校長 藤田 紀一郎

当校は、昭和36年に設立以来、来年で45周年を迎えます。多くの関係者の方々のお力添えにより、当校も整備学校では、トップクラスの高い評価をいただけるようになりました。40周年以降、幾つかの記念事業を実施してきましたが、この度、社会への情報発信の一つとして学校新聞を創刊することにいたしました。これまでも、折に触れ「中整校ニュース」とか「かわら版」という名で発行したことがありますが、今後定期的に、継続的に発行していきたいと考えています。創刊にあたり、来し方、行く末を考えながら、創刊の意味を考えてみたいと思います。

1. 45周年の歩み

昭和36年に、トヨタ自動車の直営整備学校としてスタートし、3級コースから2級コースへ、さらに、平成14年には全国初の国家1級整備士コースである自動車研究科コースを新設、ブラジルコースも含めると、総学生数は、150名から1,300名にも増え、卒業生数も2万人を超える状況になりました。施設面でも、従来の学科棟、実習棟のほか学生会館、総合技術棟、学生寮などを完成させ、最高の設備で、最高の技術を学ばせる体制が完成いたしました。卒業生の多くは、トヨタ販売会社へ就職、役員として活躍している人も多く、中でも、今回社長に就任された、ネットヨタ神奈川の卯尾社長は、卒業生社長第1号であり、当校の誇りであります。

2. 新たなる歩みへ（校名変更、基本理念の制定）

平成16年4月、学校名を「中部日本自動車整備専門学校」から「トヨタ

名古屋整備専門学校」へと改称し、新たなるスタートを切りました。これは、よりトヨタの学校であることを明確にし、社会からの信頼を受けるためのものであります。そして、同時期より「基本理念」「教育理念」を時代の変化に対応していけるよう見直し、再構築いたしました。ここでは、人格・技術ともに優れた人材を世に送り出すとともに、「いい学校だと社会から尊敬される学校」になるため、しっかりした中長期計画のもと、No.1で、オンリーワンの学校になることを、新たに、全校一丸となって取り組んでいます。そして、その象徴として、校章も制定し、学生・学校・就職先の三者がともに成長し続けるような願いを込めたデザインといたしました。

3. 「Challenge Road」に込める期待

このように、学校の来し方を振り返ってみますと、創立当時から比べると、社会の変化に伴い、学校自身も大きく変化し、さらに、新しい時代のトレンドに沿った形で、学生も、職員も変革していかなければなりません。そのためには、われわれ自身、世の中の情報を敏感にキャッチするとともに、我々も情報を世の中に発信していかなければなりません。学校のあらゆる情報を、学生に、ご家族に、高校に、就職先、同窓会、地域社会にとあらゆる関係先に発信していきたいと思えます。

このタイトルは、学生たちが立派な整備士になるという「夢」を切り開いてゆく「道」にチャレンジし続けてほしいという期待を込めたものです。そして、それは、学校職員が学生への支援にチャレンジすることでもあります。学生たちのNEXT STAGEへのチャレンジの場となることを期待して、創刊のことばといたします。

新理事長就任

新理事長 岡本 一雄

平成17年6月、当校理事長を7年間務められました齋藤明彦氏（現デンソー株式会社 取締役副会長）がご退任され、岡本一雄氏（現トヨタ自動車株式会社 取締役副社長）が新理事長にご就任されました。岡本理事長就任にあたり、経歴をご紹介させていただきます。

【学歴および職歴】

昭和42年3月 東京大学工学部航空学科卒業
昭和42年4月 トヨタ自動車工業株式会社入社
（現トヨタ自動車株式会社）
平成 4年1月 同社 製品企画統括部チーフエンジニア
平成 8年6月 同社 取締役就任
平成13年6月 同社 常務取締役就任
平成15年6月 同社 専務取締役就任
（デザイン本部本部長、商品開発本部本部長）
平成17年6月 同社 取締役副社長就任



Building Completion

自分の手で触れ、自分の体で覚えてほしい。

今春、ついに総合技術棟が完成しました。地上4階の自動車の総合整備を目的とした設計がなされており、高度な整備技術教育ができるようになっています。



TOYOTA Technical College Nagoya News

4F 電気・電子システム実習場



●ハイブリッド実習場



●ブラジルコース実習場

最新のハイブリッドカーの教材車を用いての難易度の高い電気・電子システムを学びます。また、トヨタ自動車の社会貢献によるブラジルコースも併設されており、専用のフロアにて、自動車のしくみを学びます。

3F 板金塗装・溶接実習場



●板金塗装ブース



●調色ブース

板金塗装、溶接の本格的な設備を完備した実習場です。自動車整備科の全学生を対象に、板金塗装の基礎が修得できます。

2F 自動車研究科専用エンジン実習場



●エンジン実習場



●学生ラウンジ

自動車研究科専用エンジン実習場です。ここでは、最新制御システムを搭載したエンジンを用いて、トラブルシューティングや1級自動車整備士に求められる技術を修得します。また、この2Fには、新たな演出として誰もがくつろげる憩いの空間として、学生ラウンジが併設されています。お洒落なテーブル&チェアで、憩いの場を演出し、授業の合間やお昼など、多くの学生でいっぱいになります。

1F 自動車研究科専用実習場



●車両検査室



●車両実習場

自動車研究科専用実習場として、新型車を用いての最新の技術が修得できます。また、カーリフトを40基備え、車両検査室へと自走可能な実習場となっています。

Achievement

当校4期生で、本年6月にネットトヨタ神奈川株式会社 代表取締役社長にご就任されました 卯尾社長様へ、今後の抱負や入社当時の思い出などをインタビューさせていただきました。現在、ネットトヨタ神奈川株式会社はトヨタ自動車総合表彰を30年間も連続して受賞されており、販売・サービスの充実ぶりは、全国のトヨタ販売会社からも注目を集めています。



ネットトヨタ神奈川株式会社
代表取締役社長
卯尾 仁氏

●仕事にまつわるエピソード

入社当初は、私の整備技術が未熟だったこともあり、先輩から「そんなことも分らないのか!」と工具を投げつけられて、くやしい思いもしました。そんなことでは「将来、自分の自動車整備工場を持ちたい」という夢を達成できないと痛感し、整備技術向上のため、毎日日記をつけました。先輩の整備の正確さ・速さに少しでも近づくために、日々仕事内容についての反省点や改善点など克明に記録しました。その頃は、毎日先輩の技を盗んでやろうと必死でした。その甲斐もあって、いつしか先輩のレベルを超えるようになりました。まさに、「継続は力なり」「努力は人を裏切らない」です。

私は今まで常に目標を設定し、自分を奮い立たせてきました。目標というのは、達成すると次へのチャレンジ意欲が湧くものです。勝つことだけが目的ではなく、勝つためにいかに努力をし続けられるのが、大切だと言いかせながら取り組んできました。この信念はこれからも変わらないです。

●ネットトヨタ神奈川の大切にしていることは

お客様第一主義。現在のようにCS(お客様満足度)という言葉が当たり前のようになら

る前から実践してきました。若い頃から私は、「給料は誰が支払っているのか?」と尋ねられたら、迷わず「お客様です。」と答えてきました。社長となった今でも、その答えに変わりはありません。ですから、今後もお客様の目線で何事も考えていきます。

●社長就任の抱負

30年連続のトヨタ自動車総合表彰を継続していくこと。連続表彰を続けること、つまり勝利し続けることは、人材の育成、組織の強化の力になると信じています。「現地現場第一主義」どんなに時間がなくてもこれだけは継続していきたいと念じています。

●当校の学生へ期待することは

車の代替サイクルが長期化して、今まで以上にサービスの重要性が増してきました。標準作業ができることは勿論、トラブル発生時の解決能力、更に対応、説明能力も必要になっています。トヨタ名古屋校の学生には「トヨタでトヨタを学んだ」それを強味に技術力、人間力を磨いて欲しい。整備学校出身者も含め、サービス出身者がサービス部門だけでなく、会社の中核になっています。是非、頑張ってください。私どもはトヨタ名古屋校の学生に対して、大きな期待をしています。

News File

技術講演会開催



トヨタチームトムス監督
トヨタレーシングチーム校長
関谷 正徳氏

6月8日、第4回の技術講演会が開催されました。関谷正徳氏が「レーシングドライバーとは」「ドライビング理論」について講演をしました。

「レーシングドライバーとは」では、実体験をもとに、レーシングドライバーに必要な精神力や何事にも諦めず最後までやり抜くことの大切さを学ぶことができました。また、「ドライビング理論」においては、自動車の性能の限界やタイヤの性能や、自分の技術を理解するだけではなく、心に余裕のあるドライビングなど、幅広い関谷氏の実体験をもとにした講話となりました。質疑応答では、ドラマ「エンジン」での裏話などもあり、とても分かりやすい講話となり、学生達は、真剣な眼差しで講話に聞き入っていました。

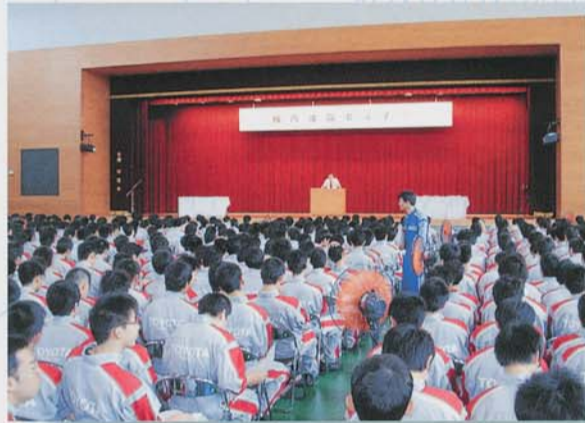
● 就職支援活動

Career Counseling

就職セミナー開催

7月8日(金)に校内就職セミナーが開催されました。この催しは、会社訪問、インターンシップを直前に控えた整備科1年生を対象に、円滑な就職活動を支援するために毎年行われています。この中で、愛知トヨタ自動車株式会社の林治夫様からは、「インターンシップでは、先輩の仕事を通じて、販売会社の仕事内容を幅広く見て欲しい」。また、広島トヨペット株式会社の矢野博之様からは、「普段から挨拶、身だしなみなど、当たり前のことがいつもきちんとしていくことが重要」という貴重なアドバイスを頂きました。続いて、在校生(2年生)からは、「事前に訪問会社を良く調べ、当日は必ず質問することが大切」「夏休み中に多くの会社訪問をすること」といった活動体験談が発表されました。

セミナーを終えた学生からは、「就職は一生を決める重要なことであるため、積極的な活動が大切」「今の学校生活を充実させることが重要」といった意欲的な言葉が多く聞かれました。1年生にとって勉強と就職活動の両立は大変ですが、希望した就職先に合格できる様に最善の努力をしてもらいたいものです。



インターンシップ

6月6日～7月30日の約2ヵ月間、研究科の学生(27名)を対象とした体験実習が行われました。この実習は、普段の学校生活を離れ、各学生が全国の就職先定先の販売会社で現場作業を体験することで、学内教育で養った整備技術を現場でより実践的なものに仕上げ、就職後の職業生活に対する適応力を高める目的で行われています。学生はこの貴重な経験を通じて、プロの整備士としての責任感やお客様対応の大切さを学びました。



実習車両との違い

実習先:愛知トヨタ自動車株式会社 様
研究科2年 青柳 宏謙

ハイラックスサーフにて電気系統のトラブルシューティング作業を行いました。不具合現象はあまり再現していませんでしたが、チェックエンジンウォーニングランプが点灯状態であったため、ダイアグノーシスコードを確認し、作業に入りました。しかし、お客様のお車でのトラブルシューティングは初めてであり、更に学校の教材車と違い、内装部品の取り外しも最小限にとどめなければならないため、作業に時間がかかってしまいました。トラブルシューティングは無駄な作業をしないためにも、事前に配線図で点検箇所を絞り込み、ピンポイントで点検していかなければならないという難しさを感じました。

効率良い作業

実習先:トヨタテクノクラフト株式会社 様
研究科2年 田代 忠臣

今日は車検を一人で任せられました。1つ1つの作業を思い出しながら、ミス無く丁寧な作業を心掛けました。しかし、お客様のオーダーを十分把握していなかったため、スムーズな作業をすることができませんでした。従って、まずはやるべきことを十分把握し、リフトの操作も最小限にできるような作業効率の良い流れをつかむことが大切であると思いました。また、今回入庫した車は年式が古いので、オイル漏れやブーツの亀裂なども多数あり、車の年式や使用状況により、特定の部品に不具合が発生しやすい傾向があることが理解できました。今後はこのような点にも注意して、作業していきたいと思いました。

● 在学生の近況

Students Now



確認試験を終えて

6月21日から3日間、整備科1年生の確認試験が行われました。この確認試験は、実技試験を中心に、技術チェック、実技ペーパー試験、台上試験から成り立っています。技術チェックの試験においては、試験官の前で日頃練習してきた成果を評価してもらいますが、緊張のあまり、手が震えてしまったり、なかなか上手に作業が進まなかったりと、様々な様子が伺えました。また、台上試験においては、今までの試験とは違い、自動車の部品を前にして、それぞれの名称や役割などを解く問題もあり、初めて体験する試験となりました。今後は、この結果をもとに、前期定期試験に向けて勉強に励んで欲しいです。

「高校までの試験方式と違い、少し驚いたが、試験の雰囲気は掴め良かった。この体験を活かして、前期定期試験では、確認試験よりもリラックスした状態でできそう。また、自分のレベルを把握することができたが、緊張してうまくできなかった。定期試験では、実技の練習や勉強にもっと力を注ぎ頑張りたい。」
(整備科1年生のコメント)

愛・地球博見学

4月20、22日にかけて、「愛・地球博」の見学が行われました。整備科の1年生は雨の中の見学でしたが、時間の許す限り会場内のパビリオンを見学していました。その中でも、トヨタグループ館、マンモスラボなどの人気のあるパビリオンを見学した学生もあり、有意義な1日となりました。「それぞれのパビリオンで、色々な方法で展示をしていたが、そこにはかけがえのない地球というものがあった。最新の技術を用いて、自然の大切さが表現されており、これまでになく、深く考えさせられるものがあった。これからも、最新の技術が多くの人の生活を良くするだけでなく、自然を守る為にも、どんどん利用され、人間一人一人が地球の大切さを考えながら、生きていけたらいいと思った。」
(整備科1年生のコメント)

開催期間も9月25日までと残り少なくなりましたが、まだ訪れていない方は是非、訪れてみて下さい。また、すでに訪れた方も再度、遊びに来てはいかがでしょうか。また、その際には是非、当校にもお立ち寄り下さい。



ボランティア活動報告

当校では、ボランティア活動を積極的に行っています。たとえば、530運動、募金活動、児童館訪問などいろいろなことを実施しています。先日は、春日町心身障害者福祉協会主催の交流研修会に参加し、障害を持った方と愛・地球博の会場見学に行きました。会場内はバリアフリーとはいえ、車椅子を押しての見学は大変でした。しかし、一緒に見学した方々は「楽しく、貴重な体験が出来た。」と大変喜んで頂いたため、疲れも飛び大変有意義な一日を過ごすことができました。ボランティアに参加した学生は「また、一緒にどこかへ遊びに行きたい。」とっていました。学生は毎日レポートなどで大変な毎日ですが、これからも時間がある時には、積極的に参加してほしいです。



ブラジルコース第6期生 修了式挙行

8月5日に、ブラジル大使館、ブラジル名古屋総領事館、豊田市国際交流協会、トヨタ自動車株式会社から多数のご来賓、ご列席のもとにブラジルコース 第6期生の修了式を盛大に実施しました。当校では、トヨタ自動車株式会社の社会貢献活動の一環として、ブラジルコース(1年課程)を付帯事業として行っており、今回6期生として20名が修了し、合計122名を世に送り出しています。このコースは在日ブラジル人の子弟を対象(ポルトガル語による授業)とし、実践力を身につけたエンジニアに育成し、修了後は修得した自動車整備の技術と知識を本国ブラジルで発揮することを期待したものです。なお、9月1日は第7期生の開講式です。



● クラブ活動紹介
Club Information

テニス部

三冠達成&全国大会出場決定

6月22日に開催された、東海地区専門学校テニス選手権大会で当校テニス部が男子シングルス、男子ダブルス、男子団体戦の各々で優勝しました。また、シングルスは2位、3位も当校の学生と表彰台を独占しました。「今回の大会では、今まで以上に良い結果を残すことが出来ました。個人の實力で勝ち残った部分もありますが、チーム自体の団結力のおかげで、ここまで勝ち上がったと思います。シングルス、ダブルス、団体のそれぞれで優勝し、チームの士気も最高潮まで上がっています。」(テニス部部長)
また、8月1日(月)~2日(火)の2日間にわたり、全国大会出場権がかかった夏期東海地区専門学校テニス選手権大会が開催され、ダブルスでは準優勝し、学校対抗の団体戦では3位になり、各々が全国大会出場が決まりました。



バレーボール部

全国大会ベスト8入賞!

8月1日~4日にかけて、第14回全国専門学校バレーボール選手権大会が大阪市此花区にある舞洲アリーナにおいて行われました。連日の暑さも厳しい中、各地区の代表のチームが集まり、熱い戦いが繰り広げられました。
当校のバレーボール部も3年ぶり4回目の出場となり、予選1次リーグにおいては、1勝1敗の成績でしたが、予選2次リーグに進出することができました。予選2次リーグにおいては、昨年度優勝校と対戦するなど、白熱したゲームが繰り広げられたが、予選2次リーグも1勝1敗し、翌日の決勝トーナメントに進出することができませんでしたが、ベスト8に入賞することができました。
暑さとの戦いでもありましたが、学生自身はゲームに集中し、自分達のプレーをしてゲームを楽しんでいました。



● アメリカ研修
Study in America

西海岸コース

日本では感じるできない感性の違い 整備科2年 北山 潤一

“なんてことはない。ちょっとばかり色白で、瞳が青くて体格がいいだけさ” というのが、今までの外国人に対する私のイメージでした。セントレアから成田へそして、サンフランシスコに行きました。サンフランシスコ空港へ到着すると周りは外国人だらけ、彼らの存在感に圧倒され、立ち竦みそうになりました。今回は7日間という短い期間ではありましたが、いろいろと発見がありました。
まずアメリカの人々は、私の予想以上にオープンスタイルであったこと。とにかく人懐っこく、遠慮がない。興味を抱くものに対してのチャレンジ精神は、日本人であれば子供なみ。いたるところでそのような光景を目にしました。
それから、きれいな街並みというものがあること。州の条例なども関係しているのかもしれませんが、非常に心に残るものでした。この景色を見ていると、アメリカの人々の態度や行動は、厳しい条例や制度の裏にある温かな人の心が、そのようにさせているのではないかと感じました。
今回の研修で、日本では感じるできない、感性の違いというものを肌で感じる事ができました。この経験を今後の生活にかかしていきたいと思います。そして最後に、私の中にあるアメリカの人々に対するイメージが大きく変化したことは言うまでもありません。



東海岸コース

アメリカ研修で学んだこと

「言葉が伝わった!分かってくれた!」その時の感動が今でも忘れられません。研修2日目、日本で言う「大江戸村」のグリーンフィールドビレッジで、とても古いT型フォードに乗せてもらった時の出来事でした。私は友人と一緒に乗ったのですが、横で運転を見ていると、「あのレバーは何だろう?燃料を調節しているのかな?」「バックはどうやるのかな?」「あの温度計みたいな物は何だろう?」と、次々に疑問や推測が湧いてきました。「運転手の人に聞いてみよう」と友人が言いましたが、上手く会話が成り立たなかった先日の入国審査のことを思い出すと、なかなか勇気が出ませんでした。
しかし、興味が勝り継ぎ接ぎの英語で質問をすると、なんと私の言葉は伝わり、運転手の方は笑顔で構造などを説明してくれました。それまでは少し怖く見えたアメリカの人が、とても身近になってきて親しみを感じるようになりました。
このことをきっかけに、その後は英会話を積極的にすることで、コミュニケーションの大切さと楽しさを改めて知ることができました。7日間という短い期間ではありましたが、この研修で私は非常に大きなものを学ぶことができたと思います。



● カナダ留学
Study in Canada



カナダ留学

カナダ留学の抱負

整備科2年 小栗 貴成

7月30日から8月27日にかけてカナダ留学がありますが、そのカナダ留学において私は3つの目標があります。
まず1つ目は、整備士という立場での目標として、板金技術の修得があります。今、私が持っている「板金に対する考え」との違いは何か、板金を行う上での重要事項、また基本となるものは何なのかを自分の目、耳そして体で感じたいと思います。
2つ目は、学生という立場での目標として、他国の文化を学ぶということです。
ホームステイという貴重な体験を有意義なものにするために、語学を学び、生活習慣や国柄を体験することで、自分の知識の幅を広げ、これからの生活に役立てたいと考えています。
最後の3つ目は、旅行者としてしっかりと楽しむことです。カナダには、カナディアンロッキーやコロンビア大氷河等素晴らしい大自然があります。このような日本にはない大自然というものを体全体で感じたいと思います。以上3つの目標を達成できるように努力し、留学後は今より1歩でも成長した自分になりたいと思います。

Information

オープンキャンパス

- ◆学校見学会 … 9月17日(土)
- ◆入試説明会 … 9月23日(金)



2006年4月入学生募集

全員が学科、実習ともに基礎から学べるため、無理のないステップアップが可能に。誰でも「自動車整備」のスペシャリストをめざすことができます。自動車に関する専門技術教育と企業ニーズにあった職業教育をおこなっています。

入試日程

- ◆指定校推薦入試 10月14日(金)・15日(土)
- ◆一般推薦入試 10月22日(土)・23日(日)
- ◆一般入試 1回 … 11月4日(金)・5日(土)
2回 … 11月25日(金)・26日(土)
3回 … 2月24日(金)・25日(土)



第8回学園祭開催予定

- ◆日程: 10月29日(土)~30日(日)
- ◆テーマ: 「絆」きずな

内容

- ・整備コンクール
- ・研究発表
- ・模擬店など

